

夢洲まちづくり構想

夢洲の東側は、高水準のコンテナ物流拠点として既に供用しており、西側の廃棄物埋立処分場の一部には大規模太陽光発電施設が設置されています。

夢洲地区のまちづくりについては、大阪府・関西経済界とともに「夢洲まちづくり構想」を2017年8月に策定し、新たな国際観光拠点の形成に向けて取り組んでいます。

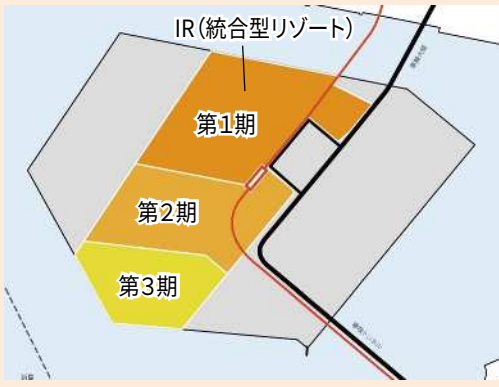
夢洲地区のめざすべき姿

大阪の成長をけん引する
新たな拠点の形成
～新たな国際観光拠点～

大阪の成長を支える
既存拠点の充実
～国際物流拠点～

適切なゾーニングや都市基盤等の整備

段階的な土地利用



夢洲地区の土地利用

みどりあふれるオープンスペースや親水空間の形成

エンターテインメント機能やレクリエーション機能の導入等による、新たな観光拠点の形成

高付加価値物流機能等を備えた物流機能等の確保



大阪 IR (統合型リゾート)は、国際会議場や展示場、ホテル、レストラン、ショッピングモール、エンターテインメント施設、カジノなどで構成される一群の施設で、民間事業者が一体的に設置し、運営します。

民間ならではの自由な発想で、ビジネス客やファミリー層など幅広い層が昼夜を問わず楽しめる魅力ある施設と質の高いサービスが提供されます。

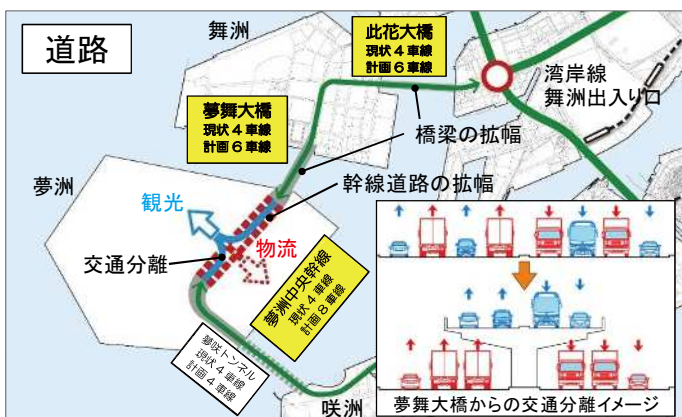
世界最高水準の成長型IRの実現を図ることで、成長産業である観光分野の基幹産業化を図るとともに、大阪・関西の持続的な経済成長のエンジンとして、その成長力及び国際競争力を持続的に強化し、観光や地域経済の振興、財政の改善への貢献を持続的に発現します。

魅力あるまちへの快適な道路アクセスの整備

夢洲への道路アクセスは、舞洲及び咲洲からの2ルートがあり、舞洲ルートには、阪神高速道路湾岸線の舞洲出入口があるため、遠方からも高速道路ネットワークを利用したアクセスが可能です。

2025年日本国際博覧会の開催に向け、阪神高速道路湾岸線の舞洲出入口から夢洲へのルート上にある幹線道路の拡幅や此花大橋・夢舞大橋の車線数を増やすことにより、道路機能を強化することとしています。

また、夢洲内では、観光車両と物流車両の動線を分離させるための高架橋を整備するとともに、国際観光拠点エリア(観光・産業ゾーン)の土地利用計画を踏まえ、IR 予定地を取り巻く外周道路を整備することで、円滑な交通ネットワークを確保することとしています。



鉄道網の整備による臨海部のアクセス強化

臨海部に立地する観光集客拠点間での回遊性の向上や更なる集客を図るために、(仮称) 夢洲駅を中心に北ルート(京阪中之島線延伸・JR 桜島線延伸)と南ルート(地下鉄中央線延伸)の2方向の整備構想が考えられています。夢洲の段階的な土地利用の状況に応じた鉄道整備を検討することとしており、まずは、2025年日本国際博覧会の開催や IR の開業に向けて必要となる輸送能力を確保するため、南ルートの整備を進めています。また、鉄道網を整備することで交通負荷を分散し、周辺道路に与える交通影響の軽減を図ることとしています。

